

「理解」に必要なもの

5年 S・Tさん

いま日本や世界で最も必要なものの「理解の大切さ」がこの本のテーマだ。ミンミンの母国、中国と日本に限らず、世界の様々な場所や国々で、理解が行き届かないために様々な問題が解決せず、悲惨な戦争も起きている。人間同士の理解が何よりも大切であることを、この本を読んで深く感じた。

「人と人がおたがいに心を通わせることで理解は生まれまます」「大切だと思っ心が理解につながる」「理解が問題を解決していくのです」「……ミンミンの言葉は感動的で、深くうなずいた。これらの言葉を世界中の人たちに届けたいとも思った。ただ、読み終えた後、考えたことがある。理解の大切さについては多くの人が分かっているはずなのに、何故、実際には理解し合えないのかということだ。

確かに心を通わせること、相手を大切と思っことは重要だが、人間には育ってきた環境や文化の違いがあるため、簡単なことではない。また、感情があるため、対立や憎しみに変わることもよくある。人間同士が理解し合うことは難しい。「誤解のない理解は存在せず、偏見のない意見はない」と以前、父が言っていたが、そもそも完全な理解はあるのだろうか。

しかし、相手のことが理解できなくても、可能なことはあると思う。それは相手の違いを認めたくらうで受け入れる、そして、何かあっても許すことである。その姿勢が前提となつて、相手と心を通わせたり、理解したりすることにつながるのではないだろうか。ミンミンと悠介が理解し合うことも、お互いを許し合ったように。

この本は「理解」というテーマに限らず、とても魅力的だったが、それはミンミンの存在にある。羽生気を読む「ことを否定し、悠介の母親や友達とトラブルも起きるが、そこには自分の意思を大切に、周りに流されない強さがある。その姿勢は、悠介の気づきと成長につながった。悠介の家族にも影響を与えた。バオピンという美味しそうな料理も運んだ。ミンミンが新しい風を吹きこんだのだと思う。異文化は幸せの種をまくことができると思えた。

題名の「まっすくな地平線」は何を意味しているのだろうか。ミンミンは初めて海の水平線を見て、「広い景色は、人の心を広くします」と言った。ミンミンにとつての水平線は、悠介にとつては地平線なのかもしれない。悠介は最後に「まっすくな地平線を見に行こう」と言っている。私の想像だが、「地平線」は見たことのないもの、そして広い心を表し、一方の「まっすく」はミンミンの人柄を示しているのではないだろうか。つまり、広い心で偏りなく、出会うものを受け入れて、まっすく生きていければという主人公の心の声だと感じた。

理解に必要なものは「深い」を尊重することだ。それぞれの個性を認め合い、違いを許し合い、楽しむことは、深い理解につながっていくはずである。そうすれば、差別や貧富の差、あるいは戦争は少なくなり、本当の意味で豊かな世界が築けるのではないだろうか。私は将来、どんな仕事をしたいか、まだ分からない。しかし、違いを認め、相手を受け入れて、理解することを、自分の生き方として大切にしたい。そんな生き方を貫けるような大人になりたい。この本に出会って、そんな思いを強くした。